

白川郷学園「コミュニティ・スクール」立ち上げに向けての取組

学校名	白川郷学園白川小学校・中学校	対象学年	全児童・生徒
支援活動内容	コミュニティ・スクール立ち上げに向けての準備委員会		

学校の願い

平成23年度、村内に2校あった小学校を統合し、中学校に隣接した新校舎と共にと、施設一体型小中一貫校「白川郷学園」をスタートさせました。学園の教育目標を「ひとりだち」と掲げ、小中全職員共通の指導理念のもと、9年間を見通したきめ細かな学びを行っています。「ひとりだち」に向けた重点活動の中には、「ふるさと学習」があり、「ふるさと白川郷に夢と誇りを」もった一流の白川人を育む取り組みに力を入れています。

一貫校をスタートして3年目、子どもたちの「ひとりだち」へ向けた支援のあり方を振り返るなかで、地域との繋がり的重要性が見えてきました。統合により学校と地域との距離感が感じられるようになったことが課題にあげられ、「地域に根ざした学校教育」「白川っ子を地域と共に育むこと」がこれからの学園の重点であり、地域との繋がりをより深めることが、大きな願いとなっています。

コーディネーターの関わり方

学園と地域を結ぶ手立てとして、「学校運営協議会」を立ち上げることにしました。形ではなく必要性のある学校運営協議会を設立するために、地域の方と共に準備委員会をつくりました。

コーディネーターとなる社会教育主事（地域代表）と教頭（学校代表）は、委員の方々がより主体的に熟議できるよう、会議のあり方や設立までの流れを綿密に打ち合わせ、学園と地域の両サイドの願いが込められた「学校運営協議会」になるよう進めてきました。

活動の工夫や効果

（○工夫 →効果）

○準備委員会のメンバーは、学校のため地域のために主体的に関わってくださる、いろいろな立場の方をコーディネーター役の社会教育主事が選出しました。

→地域のあらゆる面からの意見が出され、学校と地域の繋がりの幅が大きく広がることができました。

○10月設立に向けて、準備委員会のあり方をコーディネーターが計画を立て進めてきました。

「願う白川っ子の姿」→「そのために地域で出来ること」→「具体的な手段」といった熟議の順序を工夫し、事務局主体の「形だけの会議」にならないようにしました。

→議題の流れが委員の方々の意識の流れと一致するため、熟議がより活発になり、価値ある意見が多く出されました。また、何のために設立に向かっているのかが明確になり、途中で方向修正される意見なども出され、目的に向かったより良い熟議ができました。

○熟議の方法にKJ法を取り入れ、全委員が主体的に意見を交流し合えるようにしました。

→多くの意見が出され、学校と地域の願いの共通点なども明らかになり、これからの方向性が明確になりました。

